



ミュンヘンのルートヴィヒ・マクシミリアン大学  
公衆健康と介護・リハビリ医療研究機関の学科長  
医学的気候学 アンゲラ・シュー教授

ミュンヘンのルートヴィヒ・マクシミリアン大学で医学的気候学の教鞭を執るアンゲラ・シュー教授は、人間生物学博士と医学気象学博士の称号も持つ。

ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学の公衆健康と介護・リハビリ医療研究機関の学科長であり、とくに専門分野として医学的気候学と介護・リハビリ医療・クアオルト(療養地)医学の指

導者である。

専門分野:医学的気候学—クアオルト医学

シュー教授の研究は、その土地特有の治療手段を使ったクア・コンセプト(療養の概念)、とくに入院でないクア・コンセプトの開発と評価である。例えば、バイエルン州厚生省の依頼で、バイエルン州クアオルトの医学的品質を確保すべく、介護・リハビリ研究プロジェクトを指揮している。

その他、教授は、予防処方とリハビリ処方としての気候療法・海洋療法の部門にも従事している。クア(療養)患者とリハビリ患者に、気候療法がどのように影響を及ぼすかを、各種の気候区分の地域で臨床研究を行い、適応症と相関的なコンセプトを開発している。各クアオルトで、予防措置としての、またリハビリ措置としての気候療法(気候性地形療法、戸外横臥療法、日光浴療法)が処方できるよう、それらを開発・評価してきた。それ以外に、気象病におけるエビデンスの分類と予防対策の開発も専門分野にしている。

学術的業績は3冊の専門書と250以上の学術刊行物に見られる。教授は、大学における授業の他、医師のための研修、特に気候療法、自然療法、クアオルト医学の講師を各地でつとめている。また、ドイツ温泉療法医連盟と州医師会のクアオルト医師&温泉療法医養成部管轄の、4つの養成コースにおいて指導責任者の立場にあり、気候療法士養成指導の世界的な責任者でもある。

研究と授業・指導の合間に、クアオルト認定のための公的鑑定をするほか、既存のクアオルトの指導にもあたっている。

教授は、ドイツ湯治場連盟の「学術・研究・開発」委員会の委員、ドイツ湯治場連盟の中の温泉治療学&気候治療学会会員、ドイツ湯治場連盟の総会での代表、湯治場・クアオルト・治療泉認証のためのバイエルン州専門委員会における決定権所持者、ニーダーザクセン州のクアオルトのための常任委員会における、決定権を持つ会員。さらに、シュー教授は、世界病気予防機構(IPO)の学術顧問でもある。

IPO – International Prevention Organization

[http://www.internationale-praevention-organisation.org/en.ipo/en/Strukturen\\_m\\_Kompetenz/Wissenschaftlicher\\_Berat.htm](http://www.internationale-praevention-organisation.org/en.ipo/en/Strukturen_m_Kompetenz/Wissenschaftlicher_Berat.htm)